

「自然環境の保全・復興(ネイチャーポジティブ)への貢献」

自然環境の保全・復興への貢献を考えるにあたりUBEグループは、自らの自然への「依存」と「影響」を分析・評価し、リスクと機会を抽出しそれらのマネジメントを実施致します。UBEグループの主要製造拠点は、日本国内では、宇部、堺、千葉（市原）、及びその他（成田、佐野、岐阜）、海外では、Castellon（スペイン）、Rayong（タイ）に立地しています。

UBEグループは、生物多様性や自然環境を変化させるIPBESの5つ要因（①気候変動、②陸上、淡水、海域の利用変更、③資源の利用と補充、④汚染、⑤侵入外来種）やサプライヤーアンケートなどを利用して、バリューチェーン全体で、「依存」と「影響」を把握した上で、対応を決定していきます。

リスクの把握は、サプライヤーアンケート、マップ型外部ツール（IBAT/Aqueduct など）、影響・依存の業種別マテリアリティ評価ツール（Encore など）、現地情報（自治体ハザードマップなど）を用い総合的に判断していきます。バリューチェーン全体での把握においては、UBEグループにとって重要なサプライヤー、顧客、原材料から検討を行います。

自然環境の課題は、UBE 単独、UBE グループの枠組み内の取り組みだけでは完全には解決できないため、地域/ステークホルダー/国内外関係組織と連携・協働することを検討し対応していきます。

UBEグループの自然環境に対する「影響」として考えられるものは、製造時に使用する化学物質による汚染、当社製品を使用したプラスチック等の廃棄による汚染、GHG 排出による気候変動への影響、自社製品製造のための水利用（取水・排水）等が考えられます。

UBEグループの自然に関する取り組みは、まずは、化学物質排出量の管理、廃棄物削減、GHG 削減などのカーボンニュートラルへの対応、プラスチックのリサイクル等のサーキュラーエコノミーへの貢献であると考えています。

※さらに詳細な内容は、基本文書に記載しています。

URL：

<https://www.ube.co.jp/ube/jp/sustainability/rc/environment/pdf/nature-positive-guideline.pdf>

UBE株式会社

サステナビリティ推進部 地球環境問題対策推進グループ

2024年7月